

災害を伝え続ける狛犬

## — 布津町・熊野神社 —

神社に行くとい狛犬が出迎えてくれます。狛犬は、拜殿に向かって右側にある、口を開いて吠えているものを「獅子」、左側にある、口を閉じて角が生えているものを「狛犬」と呼び、通常はこの2体をあわせて「狛犬」と言います。狛犬は邪気からご神体を守る役目があるとされていますが、布津町の熊野神社にある狛犬は、ご神体を守るだけでなく、大切なことを私たちに伝え続けています。

1792年に発生した「寛政噴火」では、地震によって崩壊した眉山の土砂が海に突っ込み、津波が発生しました。この津波がどこまで駆け上ったのかを示した「大変後島原絵図」（島原市本光寺常盤資料館所蔵）によれば、布津周辺は標高50m以上の場所にまで津波が押し寄せたとされています。これは、寛政噴火で生じた津波が駆け上った標高としては最も高い値です。

熊野神社の狛犬は、貝崎名の井上市兵衛氏によって、1735年に神社に奉納されました。その57年後、この狛犬は神社を襲った津波に遭遇しますが、それでも流されることなくここに

留まったそうです。つまりこの狛犬は、最も高い場所まで津波が駆け上った布津町周辺で、どこまで津波が駆け上ってきたのかを、私たちに直接教えてくれているのです。

今年の正月は、ご神体を守り、過去の大災害を伝え続けている狛犬に、会いに行ってみませんか？



南島原市布津町 熊野神社にある狛犬

### 第38回「ジオ空教室」

島原半島の歴史・文化・自然、そしてそれらをつくりだしたジオの魅力を、その道のプロが毎回たのしく紹介します。ふるってご参加ください！



- ▶ **と き** 1月19日(日) 10時～12時(受付:9時30分)
- ▶ **集合場所** 「ほっとふっと105」 蒸し窯前(雲仙市小浜町北本町)
- ▶ **講師** 山東 晃大 先生(京都大学経済研究所研究員、先端政策分析研究センター研究員)
- ▶ **題目** 「小浜の塩」を通して地球の環境を考える
- ▶ **内容** ジオパークの恵みを活かして造られる「小浜の塩」小浜の街をめぐる、その歴史や魅力に迫ります
- ▶ **参加料** 500円(施設使用料、飲食代含む) ▶ **定員** 20人
- ▶ **申込方法** 氏名、住所、性別、生年月日を記入のうえ、メール (info@unzen-geopark.jp) または電話で申し込んでください
- ▶ **申込期限** 1月15日(水)